

世界冬の都市市長会とは



「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学びあうためのネットワークです。以前は、北方都市市長会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年に第1回の市長会議を開催したのが始まりです。2004年に名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりのアイデアや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。近年の会議では特に、地球温暖化問題などの環境問題に力を入れて取り組んでいます。



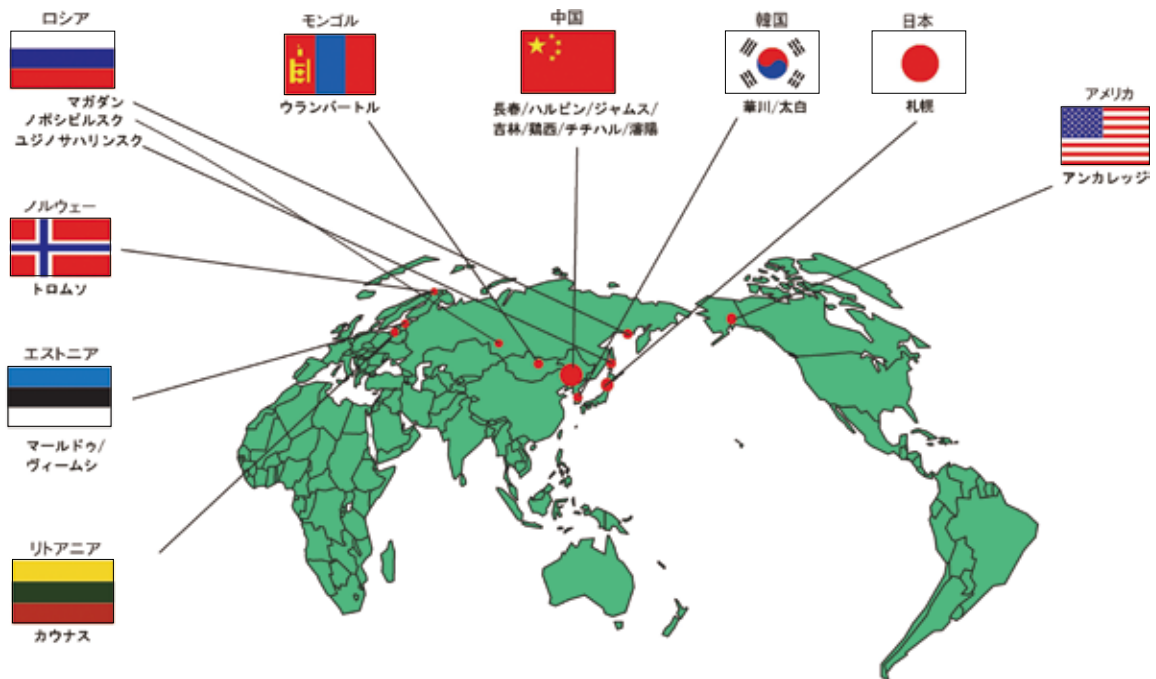
札幌市の取組事例を発表する上田文雄市長

冬の都市とは

積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

- 積雪の基準 1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm(8インチ)以上となること。
- 寒冷の基準 1年間のうちでもっとも寒い月の平均気温が概ね摂氏0度(華氏32度)以下となること。

会員都市 9カ国 19都市 (2012年3月現在)



世界冬の都市市長会は、国連経済社会理事会登録NGO(ロスター)、国連広報局登録NGOです。

市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。

これまで15回の会議が開催されており、地球環境問題、都市計画、冬の都市交通、除排雪などについて、市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、「まちづくり」へのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学ぶことができました。

市長会議は、市長自らが各都市の取組事例を紹介し、市長同士が膝を交えて率直な意見交換を行う格好の機会となっています。



ウランバートル市長会議の様子

冬の見本市・冬の都市フォーラム

冬の見本市・冬の都市フォーラムは、市長会議と併せて行われる、併催事業です。

「冬の見本市」は、開催市および会員都市の企業や団体が中心となって、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うものです。

「冬の都市フォーラム」は様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、冬のライフスタイルやまちづくりなどについて発表を行う学術交流の場です。1988年の第3回会議から併催されるようになり、世界冬の都市市長会議は、大きなイベントに発展しました。



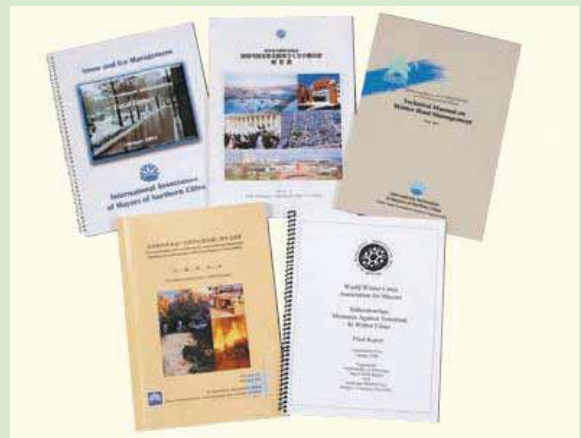
冬の見本市の様子

小委員会

冬の都市の状況や先進事例を調査・研究する機関です。

これまでに、「リサイクル小委員会」、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」、「冬の都市環境問題小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに基づいて調査・研究成果をまとめています。

現在は「環境保全小委員会（事務局：长春市）」が活動しており、大気汚染や融雪剤の影響などの公害対策技術の紹介など幅広い活動を行っています。また、最新の活動状況を世界冬の都市市長会のウェブページにて発信しております。



小委員会報告書

実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次期市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する会議です。会議は原則2年に1度、事務局都市で開催されることとなっております。

会員になるには

入会手続き：会員になるには、入会しようとする都市の市長が会長に入会を申請し、役員会で入会が決定されます。

会費：会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額（GDP）を基準として算出される年会費を払わなければならないなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

会員になると：会員になると、市長会総会及び市長会議に出席して発言し、表決に加わることができます。また、市長会議の開催市に立候補することができます。さらに、会員間に形成されているネットワークを活用して様々な分野で個別に交流をすることができます。

申し込み先：世界冬の都市市長会事務局

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。（<http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/>）

世界冬の都市市長会は共に快適な冬のまちづくりについて考える会員都市を募集しています。加入の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。